

平成25年度 自己評価書

学校名	和歌山市立和佐小学校
校長氏名	武本 多香子
作成日	平成26年3月10日

1 教育目標

心身ともに健康で、人間性豊かな実践力のある子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域への情報発信を積極的に行い、本校の教育に関心を持っていただく。 地域の教育力を生かした教育活動を推進し、地域を愛し誇りに思う心を育てる。 保護者や地域の方の願いや思いに寄り添い、信頼される学校(教師・学級)づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる活動の中で、安全で生命や人権を大切にした教育に取り組み、自己肯定感や自尊感情を育てる。 一人一人を大切にした指導を通して、将来に夢や希望のもてる教育に努める。 体験活動や異学年交流、読書等を通して豊かな心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣及び学習習慣の定着を図り、基礎学力向上に取り組む。 児童一人一人が主体的に参加し取り組む授業をめざす。 児童一人一人の願いや思いをくみ取り、それぞれの可能性を十分にのばす教育に取り組む。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを毎月発行し、保護者・学校関係者委員・評議員の方々に配布するとともに、市役所支所や地元郵便局・農協等にも置いていただき地域にも情報を発信した。ホームページも定期的に更新した。 学校関係者委員会や学校評議員の皆様等、地域の方々や保護者の皆様方の意見を教育活動に反映させるよう努力した。 各学年、地域の自然・人・もの・歴史とのかかわりを大切に学習を数多く実践した。地域の方々に学校の様子を知っていただく機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「安全集会」「防災集会」「避難訓練」等を計画的に実施し、自他の安全や生命の大切さを学ぶ取り組みを進めた。 個々の児童の課題を具体的に把握し指導の手立てを工夫するため、毎学期『各学級の実情報告(和佐っ子)』『いきいき和佐っ子生活カード(学校用・家庭用)』『いじめアンケート』を実施している。 地域の教材や人材をいかした特色ある学習に取り組み、郷土を知り、誇りに思う心の育成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 南和歌山医療センター小児科の星野恭子先生に、「子どもの生活リズムと心身の発達」についてご講演いただいた。 学力向上に向け、本年度より「国語科における読み取る力の育成」を中心に研究を進めている。子どもたちが、分かる喜び・学ぶ楽しさを味わえるよう、指導方法の工夫・改善に取り組んだ。各学年研究授業を実施し、協議会の持ち方なども工夫した。 外部講師を招き、本校の取り組みについての指導を受けた。 学習環境・校内環境の整備充実に取り組んだ。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校関係者委員の方々の声からはほぼ達成していると思われるが、学校評価アンケートの「教育活動や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝えている」という項目では、約30%の保護者が「あまり思わない」「思わない」と回答している。学級だより・学年だより・学校だより・ホームページ等、掲載内容を更に工夫し、学校の様子をよりわかりやすく提供していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方や保護者を招待した「ありがとう集会」では、各学年心を込めて取り組み発表することができた。 「いじめアンケート」の結果や「和佐っ子」の報告を受け、学級指導や個別指導に取り組み、問題行動には全職員で取り組んだ。 地域の高齢者施設の皆さんとの交流では、とても温かで優しい時間を過ごすことができた。毎年定期的な交流を実施できるよう努めたい。 子どもたちの会話の中に乱暴な言葉がよく出てくる。折に触れ、言葉の持つ力を指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科学習を中心に7回校内研究授業を実施し、協議会の持ち方なども工夫することができた。外部講師による具体的な指導・助言(講義1回・授業参観2回・協議会参加3回)により、校内研修の充実を図ることができた。 週1度「生活ふり返しアンケート」を実施し、児童が自分の生活を見直す機会とした。生活状況をチェックする資料となり、児童・保護者への啓発活動に活用した。 学習タイムやすきま時間等の効果的活用を考えたい。
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報発信の重要性を認識し、ホームページや学級だより・学年だより・学校だよりの内容の充実を図る。ホームページは学年単位で定期的に更新を行い、教育活動や子どもたちの様子を迅速に伝える。 学校評価アンケートや学校評価書の結果を分析・公表し教育活動に反映させる。 地域や保護者との交流を大切に、協力関係を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりを深める活動や異学年交流を更に充実させ、お互いの違いを認め合える人権意識や自己肯定感を育てていく。 道徳教育、人権教育の充実を図る。 挨拶、掃除、当番・係り活動、言葉づかい等当たり前のことを素直に真面目に取り組む姿を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎的・基本的な知識・技能の定着」と「基本的な生活習慣の確立(生活リズムの見直し)」を図り、学力向上に努める。 現職教育では「国語科における読み取る力の育成」を中心に取り組み、国語力向上を目指す。また、教師の授業力を高めるため、校内研修・現職教育の在り方を探る。 学習タイムや読書活動の工夫等、「真剣さ」と「継続」を大切に活用を促す。

3 その他の課題

- 校務分掌を見直し、充実と簡素化を図り、教職員が児童に向き合える時間を大切にする。
- 教師の授業力・指導力・意識・意欲の向上に向け、優れた授業や研究会に参加を促す。
- 個別に必要な支援と対応について引継ぎを確実にし、見直しを持って指導にあたる。
- 人権・いじめ・体罰等について、教職員の共通理解と意識向上を図るための研修を行う。